

下の表は、児童・生徒が回答した選択肢別の平均正答率です。肯定的な回答をした子どもほど、高い正答率であることが分かります。探究的な学習は、興味・関心・意欲の向上とともに、知識・技能の着実な習得や思考力・判断力・表現力等の育成に有効であると言われています。

Q 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか

選択肢	平均正答率(%)		小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学	国語	数学
当てはまる	70.5	71.4	78.4	59.6		
どちらかといえば 当てはまる	61.8	62.6	69.2	47.4		
どちらかといえば 当てはまらない	57.1	57.2	64.0	45.8		
当てはまらない	64.3	66.7	42.9	38.1		

Q 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか

選択肢	平均正答率(%)		小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学	国語	数学
当てはまる	71.0	69.8	77.9	58.5		
どちらかといえば 当てはまる	60.7	62.8	70.2	50.1		
どちらかといえば 当てはまらない	56.8	59.4	61.4	38.6		
当てはまらない	50.0	43.8	28.6	19.6		
学級の友達との間で話し合う活動を行っていない	0.0	0.0	14.3	0.0		

～これからの時代を切り拓くために求められる「探究する力」～

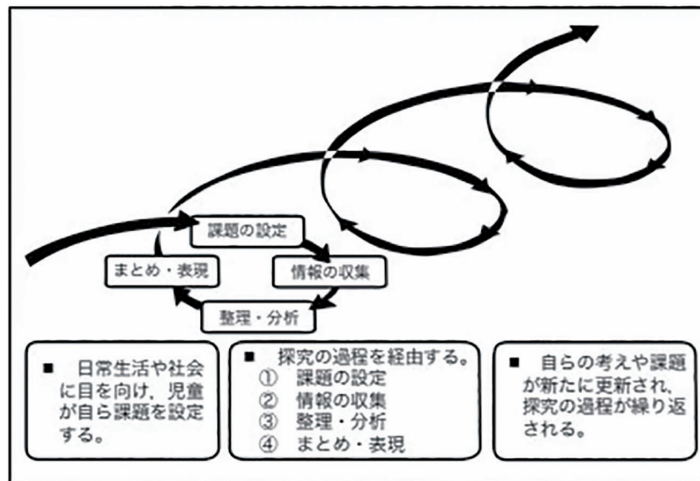
社会の急激な変化、予測困難な時代を迎え、教育も大転換期を迎えました。これからの時代に対応する力を育成する要となるのが、「探究的な学習」です。

今年度から高等学校においても学習指導要領が全面実施となり、「古典探究」「日本史探究」「歴史探究」「理数探究」「総合的な探究の時間」等の科目が新設されました。小中学校でも、学習指導要領「総合的な学習の時間」において、「探究」について言及されています。目標（一部抜粋）を紹介します。「探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う」

香美市でも「探究」を軸として、小中学校9年間の学びをつなぐ取組を推進しています。

注) 探究的な学習・・・物事の本質を探ってみ極めようとする一連の知的な営みのこと

探究的な学習における学習の姿



▲出典 学習指導要領（文部科学省）

～地域は宝～

香美市の「人・もの・こと」は、子ども達の学びの宝です。「地域の自然と環境問題」「伝統文化の継承」「地域の人々を守る防災への取組」等、テーマはさまざまですが、実際に体験や調査を通して、地域のすばらしさに気付くとともに地域課題を知り、その解決のために子ども達は考え、地域の一員として取り組んでいます。その過程では、地域の方々の思いや願いに触れ、自己の生き方を考えることにもつながっています。「よってたかって地域が育てる教育」を合言葉とし、地域と共に歩む教育を進めて、8年目を迎えました。

「よりよい社会づくりのために地域の担い手を育てる」ことが学校教育の使命であると思います。香美市ではコミュニティ・スクールや地域学校協働活動を積極的に進め、あらゆる場面で、たくさんの方々に子ども達の育ちを支えていただいています。

これからも、地域の皆様のご協力のもと、香美市の教育を推進していききたいと思います。

教員も地域の財産を学びます

初任者・社会科副読本担当教員 フィールドワーク



▲大川上美良布神社



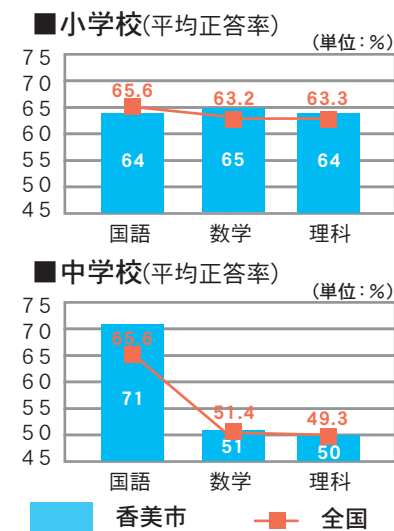
▲坂田信夫商店

～学力調査の実施～

4月に「全国学力・学習状況調査」が全国一斉に実施されました。子ども達の学力や学習の状況を把握し、学校での授業改善に活用したり、家庭等と協力して子ども達の生活を見直したりする目的で行われています。8月に調査結果が提供されました。香美市教育委員会では、この結果を受けて、各学校とともに学力向上により一層取り組んでいきます。本調査結果から、香美市の子ども達の学力の現状についてお知らせします。

全国学力・学習状況調査	
対象	小学6年生、中学3年生
教科	国語、算数・数学、理科
質問紙	学習意欲、学習方法および生活習慣等に関する事項

～調査結果～



香美市の結果は左のとおりです。

ご覧のとおり、小中学校ともに全国平均正答率と同等の結果となっており、教育水準の維持向上が図られています。これは、学校が調査結果をしっかりと分析して課題を明確にすると同時に、必要な力を伸ばすための授業研究が行われるなど、学校全体でP（計画）D（実行）C（評価）A（改善）サイクルを回しながら、授業改善に努めてきた成果です。

さらに、小中学校の教員が9年間の学習内容のつながりを理解し、その学年の実態に合わせた取組が適切に行われていることも成果に繋がっています。

～今昔授業風景～

一斉授業での知識の獲得から、子ども同士の協働による探究学習へと、学習のあり方そのものが大きく変わってきました。学力調査内容も、身近な生活や社会問題を、教科の視点から考える問題解決的な場面設定となっています。つまり、教科で獲得した知識・技能を、総合的な学習の時間や特別活動等で活かす取組が求められています。ここで、問題場面の一部を紹介します。

○小学校国語

【問題場面】「地域のためにできることについて話し合う（公園の美化）」

【出題の趣旨】互いの立場を尊重しながら意図を明確にして話し合い、自分の考えを広げたりまとめたりすることができる。

○中学校理科

【問題場面】「東京オリンピック・パラリンピックで聖火の燃料に水素が使われたことから、水素を燃料として使うしくみの例について科学的に探究する」

【出題の趣旨】水素の利用について科学的に探究する学習場面において、化学変化に関する知識および技能を活用できるかどうかをみる。（出典：国立教育政策研究所HP）



▲昭和23年～24年 大宮中学校（出典：写真集「ふるさと今・昔」香北）



▲令和4年 香北中学校
タブレット型端末で得た情報を、グループで共有し、意見を出し合っている様子。市内の全校で、このような授業が展開されています。